

第 2 回水マネジメント懇談会 議事要旨（案）

日 時 : 平成 1 5 年 6 月 1 8 日（金）10:00 ~ 12:00

場 所 : 国土交通省会議室（中央合同庁舎三号館 4 階特別会議室）

（ : 各委員、 : 河川局）

- 1 各水系の水需給のグラフは、供給能力の低下ということであろうが極めてわかりにくい。一般の人にとって各年の最大取水量が供給能力を下回っているのに、なぜ頻繁に取水制限が生じているのが極めて理解しにくいだらう。
- 1 実際の供給能力は気象の状況によって変化するが、特に近年は額面の水利権量と実力の水資源開発が違ってきている。
- 2 現在一般市民の水資源に関する関心は浅く、渇水が来ても死ぬことは無いだろうという程度の漠然としたものである。水資源不足の状況により一般の市民生活にどのような危機が実際に生じるのか生活予測シナリオを示す必要がある。
- 3 渇水調整のシステムが水系毎にちがっているということか。
- 2 地域によって違いがあります。
- 4 水資源の問題は配分の問題だけなのか、あるいは（東京圏では）絶対量が不足しているのか。絶対量が不足しているならば海水淡水化等が必要となるが、海水淡水化はネックとなるコストは工業用水用に水質スペックを落とせば水を作るコストは安くなるのか。
- 5 各ダムの貯水容量と開発水量の実力の関係が開発時期などによって違ってわかりにくいものではっきりさせる必要がある。
- 6 配分の問題であると、水道料金の地域格差はどのくらいあるのか。
- 7 将来の日本の国力との関係、食料輸入などの仮想水の問題、生活形態の変化と水需要なども書き込む必要性がある
- 8 次回、提言の素案を事務局と委員長で作り議論をする。